



「アジア地域における試験検査サービスの需要増加と香港政府の正式認可に対する世界的な認知傾向に鑑み、日本の試験検査分析企業にとって、香港は間違いなく、最適な拠点です。」

試験検査分析と言えば香港

一般財団法人 日本文化用品安全試験所 (MGSL) は、香港の戦略的なロケーションに着目し、香港事業所を開設しました。厚生労働省食品衛生法に基づく外国公的検査機関、並びに香港政府認定の検査機関として、試験、検査分野で幅広いサービスを提供します

製品の安全性試験で55年の実績を持つ、MGSL(本部:東京)は、2014年、国際市場への事業展開の拠点として香港を選択しました。新界の大埔に開設された香港事業所では、2014年9月の開設時に5名のスタッフを採用し、現在では35名(含日本人5名)の陣容にまで拡大しました。MGSLの試験検査業務は9事業から構成されていますが、香港事務所では主に玩具の安全検査業務及び家庭用日用品の化学分析業務を展開しています。

MGSLの香港事業所開設の決定には、世界の製造拠点である、珠江デルタ(PRD)地域への近接性、そしてアジアの中心という香港の地理的優位性が、その背景にあります。

「玩具製造業のバリューチェーンは、同地域に移行しました。多くの日本メーカーが製造拠点を中国本土並びに他のアジア諸国へと移しました。今や、多くの製品が、深圳で品質確認を済ませ、香港で試験検査を受けて、日本へと輸出されています。昨今、日本は製品設計に特化しています。」とMGSL専務理事 渡邊孝善氏は述べました。「インドネシアやインドのような近隣諸国の若年層人口の厚さと人口増加が、試験検査サービスにとって巨大な市場をもたらします。こうした状況に加え、PRD地域に隣接する立地と物流面での費用対効果とを考慮すると、香港での事業所開設は、理にかなった選択と言えます。」

試験、認証ハブとして香港の地位

香港は、アジアにおける試験および認証ハブとしての地位を確立してきました。渡邊氏は、香港政府の正式認可を受けた試験所を持つことは、海外事業展開において大きな強みだと

捉えています。国際的なルールや規制に準拠している香港政府の正式認可が、ヨーロッパなどの海外市場で認められる傾向にあるからです。MGSL香港事業所は、総合的な試験サービスを提供するだけでなく、中国華南地区や東南アジアのお客様をサポートするための地域統括本部としての機能を果たしています。

「香港の自由貿易港としての優位性、情報や資本の自由な流れといったビジネスに優しい環境の下、当社が事業を展開出来ることを嬉しく思います。」と渡邊氏は述べました。「また、香港事業所は、文字通りゼロからのスタートでしたが、一流大学卒の現地スタッフを採用することが出来ました。彼らには定期的に東京本部での研修を実施しています。」

渡邊氏は、5年後に、香港事業の収益倍増を目指し、2016年までに特に経験豊富なスタッフ80名の採用を計画していることを明らかにしました。「アジア地域における試験検査サービスの需要増加と香港政府の正式認可に対する世界的な認知傾向に鑑み、日本の試験検査分析企業にとって、香港は間違いなく、最適な拠点です。」と渡邊氏は締めくくりました。

一般財団法人日本文化用品安全試験所 (MGSL)

- 東京事業所 (本部)、大阪事業所、香港事業所、台北事業所
- 従業員150名 (日本国内)、35名 (香港)

www.mgsl.or.jp